

2020 年度
学校教育における
即興型英語ディベートの推進・指導者育成
中間報告書

助成：公益財団法人 日本財団

2021 年 4 月

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会（PDA）



目次

1 研修会・地域交流大会・合宿・大会

1.1	PDA 神奈川交流大会 体験会 (厚木高校、光陵高校、茅ヶ崎北陵、相模原高校)	10月3日
1.2	PDA 首都圏交流大会 体験会 (八王子東高校)	10月8日
1.3	PDA 首都圏交流大会 体験会 (埼玉県立浦和高校)	10月9日
1.4	2020年度神奈川県教員研修(神奈川県教育委員会) 第4回英語4技能指導法研究グループ研究会	10月9日
1.5	PDA 神奈川交流大会 体験会 (鎌倉高校、湘南高校、多摩高校、大和高校)	10月10日
1.6	PDA 神奈川交流大会 体験会 (小田原高校、川和高校、横浜緑ヶ丘高校)	10月24日
1.7	PDA 中四国公立高校 即興型英語ディベート交流大会	10月25日
1.8	PDA 首都圏交流大会 体験会 (都立西高校)	10月27日
1.9	PDA 首都圏交流大会 体験会 (埼玉県立浦和第一女子高)	10月28日
1.10	PDA 神奈川県高等学校即興型英語ディベート交流大会	10月31日
1.11	PDA 岩手県公立高校 即興型英語ディベート交流大会	11月3日
1.12	2020年度神奈川県教員研修(神奈川県教育委員会) 第6回英語4技能指導法研究グループ研究会	11月11日
1.13	第7回 PDA 首都圏公立高校 即興型英語ディベート交流大会	11月15日
1.14	第6回 PDA 高校生即興型英語ディベート全国大会	12月19日-20日
1.15	第6回 PDA 高校生パラメンタリーディベート世界交流大会 2021	1月23日-24日
1.16	PDA 東京都公立中高一貫校中学校即興型英語ディベート交流大会 2021	2月13日
1.17	令和二年度 PDA 熊本県高校生即興型英語ディベート交流大会	2月20日
1.18	PDA 全国中高教員向け即興型英語ディベートワークショップ 2021	3月7日
1.19	第4回 PDA 中学生即興型英語ディベート全国大会	3月20日
1.20	PDA 京都高校即興型英語ディベート交流大会	3月23日

PDA 東京都公立中高一貫校中学校即興型英語ディベート交流大会 2021

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA)

開催日時：2021年2月13日(土) 13:30-17:00

会場：オンライン

参加校：7校(桜修館、三鷹、大泉、白鷗、両国、南多摩、富士)、14チーム

参加者：生徒55名、教員25名

スタッフ：PDAスタッフ、PDA認定教育ジャッジ、名古屋工業大学、一橋大学

主催：一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA)

助成：公益財団法人 日本財団、公益財団法人 KDDI 財団



開会式では、都立富士高等学校附属中学校の野村公郎総括校長より、「即興型のディベートです。語学力や表現力を活かして皆さんの力を最大限に活かしてください。また、チームワークを発揮し、日頃の成果を出し切ることができるよう頑張ってください。」とエールが送られました。次に、PDA 代表理事である中川智皓より「再来年度からは高校の授業で『論理・表現』という新しい科目が追加されます。いろんな論題に対して多角的な意見を得ることが重要です。ディベート後にジャッジからのフィードバックの時間がありますが、ジャッジからの意見も含めて多様な意見や価値観に触れてもらえたらと思います。」とメッセージが送られました。そのあと PDA ディベート推進委員長の大賀より、参加校の紹介、ルールの復習、POI (質疑応答) の確認などが行われました。



野村公郎総括校長よりご挨拶



PDA 代表理事中川智皓よりご挨拶



POI の練習

開会式が終わるといよいよ第1ラウンドの始まりです。第1ラウンドのお題は、「**We should ban school uniforms. (制服を廃止すべきである。)**」でした。肯定側は、制服にはお金がかかることや、表現の自由について、否定側は集団意識の重要性や私服によるいじめの問題などについて議論を行いました。ディベート後は、「みんな制服と私服どっちがいい？」など異なる学校の生徒との交流を楽しみました。ジャッジからのフィードバックの時間になると、自分の思いつかなかったアイデアや価値観、また説明の仕方について真剣に耳を傾ける様子が見られました。



アイコンタクトをしながらスピーチ(大泉 A)



ディベート後のエアークラップ(大泉 B vs 三鷹 B)



準備時間・ジャッジのフィードバックの様子(富士)

第1ラウンドが終わるとすぐさま第2ラウンドが始まりました。第2ラウンドのお題は、「**Schools should welcome Valentine's Day. (学校はバレンタインデーを歓迎すべきである。)**」でした。肯定側は、良い思い出になる、日本の経済にとって良い、先生が管理しやすくなる、否定側はアレルギーの問題、勉強の邪魔になる、チョコをもらえなかったら悲しいなど様々な意見が飛び交いました。また、新型コロナウイルス感染症に触れるチームもあり、経済が落ち込んでいるからむしろ学校としてイベント化し、経済を回した方がいいという肯定側の意見や、感染症拡大を防ぐために、全面的に禁止すべきだという否定側の意見が上がり、白熱した議論となりました。ディベートが終わると、お互いの学校のバレンタインデーの状況を共有するなど、とても会話が盛り上がりました。



お互いに POI をし合っています（白鷗 A vs 南多摩 A）



ディベート中の様子（左：大泉、右：両国）

第 2 ラウンドが終わると、エキシビジョンディベーターの発表です。ジャッジがもう一度スピーチを聞きたいと推薦した生徒が選ばれました。エキシビジョンディベーターが発表されると、選ばれた学校から歓声が湧きました。

準備時間中は、PDA リサーチアシスタントの今井よりジャッジの仕方についてレクチャーが行われました。レクチャーの後の質疑応答では、ジャッジの仕方を聞いて逆にディベーターとしてどう振る舞ったら良いのかという点などについて、積極的に質問する様子が見られました。

ジャッジの基準

議論の強度 = 論理性 × 重要性

論理性: 論理的にその内容は正しいか

- 筋の通った説明だったか
- 説明に飛躍はないか

重要性: その議論は試合において重要か

- 価値判断は成されているか
- 論題に関係があるか



レクチャー内容へ質問（南多摩）

準備時間が終わると、エキシビジョンディベートです。論題は、「*All senior high schools and junior schools in Japan should be unified.* (日本のすべての高校と中学校は中高一貫校に統一すべきである。)」でした。肯定側は、学年の違う人との触れ合いや、受験がない分空いた時間を自分の他のやりたいことに当てられることについて、否定側は初対面の人とコミュニケーション取る能力が育たなくなるという点やむしろ受験がないから怠けてしまうという点やについて説明しました。ディベート後は、ディベートを聞いていた生徒も勝敗を決め、挙手で投票しました。生徒の投票とメインジャッジのジャッジの結果、肯定側の勝ちとなりました。



閉会式では、都立富士高等学校附属中学校の野村公郎総括校長より、「皆さんの迫力のあるディベートを聞いて大変嬉しく思います。論理性や重要性は学校だけでなく社会に出てからも必要です。ぜひこれからもその力を磨くよう頑張ってください。」と応援のお言葉をいただきました。



野村公郎総括校長よりご挨拶

【表彰】

〈エキシビジョンディベータ賞〉

PM	■■■■■さん	(都立桜修館中等教育学校)
LO	■■■■■さん	(都立南多摩中等教育学校)
MG	■■■■■さん	(都立三鷹中等教育学校)
MO	■■■■■さん	(都立両国高校附属中学校)
LOR	■■■■■さん	(都立大泉高等学校附属中学校)
PMR	■■■■■さん	(都立三鷹中等教育学校)



〈チーム賞〉

- 1位 都立三鷹中等教育学校 A
- 2位 都立大泉高等学校附属中学校 B
- 3位 都立富士高等学校附属中学校 B
- 4位 都立両国高等学校附属中学校 A
- 5位 都立桜修館中等教育学校 B



1位 三鷹 A



2位 大泉 B



3位 富士 B



4位 両国 A

〈ベストディベーター賞〉

- ・ [redacted] さん (両国 B)
- ・ [redacted] さん (両国 B)
- ・ [redacted] さん (白鷗 B)
- ・ [redacted] さん (大泉 A)
- ・ [redacted] さん (大泉 B)
- ・ [redacted] さん (大泉 B)
- ・ [redacted] さん (桜修館 A)
- ・ [redacted] さん (桜修館 B)
- ・ [redacted] さん (富士 A)
- ・ [redacted] さん (富士 B)
- ・ [redacted] さん (富士 B)
- ・ [redacted] さん (南多摩 A)
- ・ [redacted] さん (南多摩 B)
- ・ [redacted] さん (三鷹 A)
- ・ [redacted] さん (三鷹 A)
- ・ [redacted] さん (三鷹 B)
- ・ [redacted] さん (三鷹 B)



〈POI 賞〉

- ・ [redacted] さん (南多摩 A)
- ・ [redacted] さん (両国 A)
- ・ [redacted] さん (白鷗 A)
- ・ [redacted] さん (白鷗 B)
- ・ [redacted] さん (三鷹 A)
- ・ [redacted] さん (三鷹 A)
- ・ [redacted] さん (桜修館 A)
- ・ [redacted] さん (桜修館 B)
- ・ [redacted] さん (桜修館 B)
- ・ [redacted] さん (桜修館 B)



参加者の声（アンケートより抜粋）

【生徒】

- ・日本語のディベート能力がないことに気づいた。（富士）
- ・二回戦目で自分の言いたいことをうまく表現できなくて悔しかった。（富士）
- ・思ったより英語で話せた。（桜修館）
- ・来年三年生になるので、また挑戦したいです！（大泉）
- ・最期のエキシビションのハイレベルなディベートを目標に精進していく所存でございます。（三鷹）
- ・英語でディベートを、しかも即興でやるというのは初めてで緊張し不安だったが、新鮮で面白かったから。（大泉）
- ・英語で話すことの難しさを感じた。（富士）
- ・コロナ禍で十分に練習ができなかったのが残念でしたが、とてもいい経験となりました。自分の未熟さもよくわかったので、これからの英語の発表などで生かしていきたいです。（両国）
- ・本当に良い刺激をもらえました。自分自身、英語力を伸ばすことができた上に、チームメイトと一つになってディベートに取り組み、勝つことができた経験は、私の大切な自信になりました。（三鷹）
- ・多くの人のアイデアを聞いて新鮮だった。また余った時間に交流できて面白かった。ジャッジの方のアドバイスや分析がとても的確で、論理的思考を競う大会だから、もっと理由をどんどん穿って行って、将来的なことや社会問題などにつなげていくと説得力が増していくと学んだ。（三鷹）
- ・楽しかったです。また機会があればディベートに挑戦したいと思いました。スピーチを作るのとディベートは共通点も多いですが、やはり即興型で進んでいく議論は一味違いました。ジャッジの方、運営の先生方、本当にありがとうございました。（両国）
- ・他校の方、それも有志の方々と交流できてとてもいい体験となりました。ディベートは難しかったですが、いい案がでたときは快感でした。とても学び多い経験でした、ありがとうございました。（両国）

【教員】

- ・英語力だけでなく、それ以外の力がつくと思いました。
- ・生徒の英語力が、グッと上がるのが実感でします。また、なかなか他校さんの様子がわからない中、交流できてうれしいです。
- ・生徒たちは勝敗にかかわらず、他校の生徒と試合ができたことが、とても楽しかったようです。英語力も向上させながら、論理的に話して伝える面白さが味わえたようです。良い機会をいただきありがとうございました。
- ・中学生の頑張りがわかった。今後も英語教育振興のために頑張りたい。

令和二年度 PDA 熊本県高校生即興型英語ディベート交流大会

熊本県教育庁高校教育課
令和2年度（2020年度）熊本県高等学校英語教師指導力向上事業における
即興型英語ディベート研修

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会（PDA）

開催日時：2021年2月20日（土）9:45-15:30

会場：オンライン（Zoom）

参加校：10校、28チーム（熊本県立熊本高等学校、熊本県立熊本第一高等学校、熊本県立熊本第二高等学校、熊本県立熊本西高等学校、熊本県立熊本北高等学校、熊本県立鹿本高等学校、熊本県立宇土高等学校、熊本県立八代高等学校、熊本県立水俣高等学校、熊本県立熊本商業高等学校）

参加者：生徒103名、教員45名

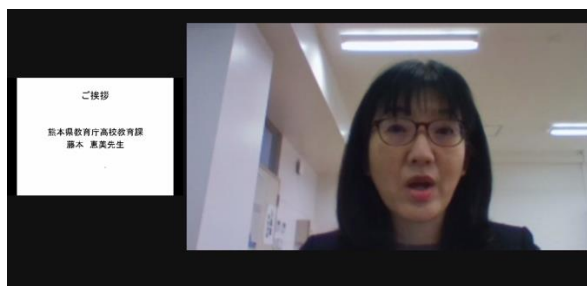
スタッフ：PDAスタッフ

熊本県教育庁高校教育課（令和2年度（2020年度）熊本県高等学校英語教師指導力向上事業における即興型英語ディベート研修）

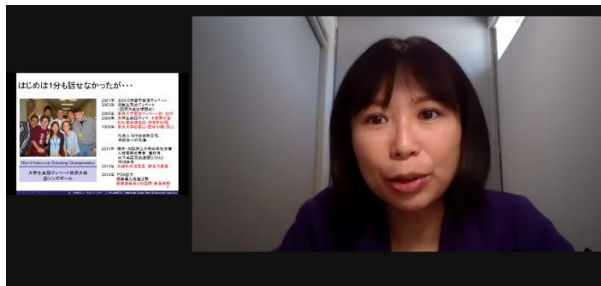
一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会（PDA）



昨年、熊本県立熊本第二高校に一同が会し、第1回目となるPDA熊本高校即興型英語ディベート交流大会が開催されました。今年は新型コロナウイルス感染症の影響もありオンラインでの開催となりましたが、昨年よりも参加校が倍に増えての開催となりました。開会式では、熊本県教育庁高校教育課藤本恵美先生より、「今年は生徒約100名、教員約50名の参加です。この交流大会の目的はパラメンタリーディベートについて知ること、そして教員研修です。生徒の皆さんも、英語でディベートすることは簡単ではないと思いますが、ぜひチャレンジして楽しんでください。」とエールが送られました。次に、PDA代表理事である中川智皓（大阪府立大学工学研究科准教授）が挨拶・参加した10校の学校紹介・ルールの確認・POIの確認を行いました。



熊本県教育庁高校教育課 藤本先生のご挨拶



PDA代表理事 中川智皓より挨拶・参加校紹介

開会式が終わると、練習ラウンドのスタートです。表彰の対象となる予選を始める前に、ディベートのルール確認やZoom操作の練習を兼ねて練習ラウンドを行います。論題は、「**We should ban school uniforms. (制服を廃止するべきである。)**」でした。今日初めて会った生徒と自己紹介をし、ディベートの準備に取り掛かりました。また、今回は、3ラウンドを利用し、高校教員約40名がジャッジを務めました。ディベートの司会進行、勝敗の決定、フィードバックを全教員が経験しました。



熊本商業高校 B チームによるスピーチ



熊本第二高校ディベートの様子

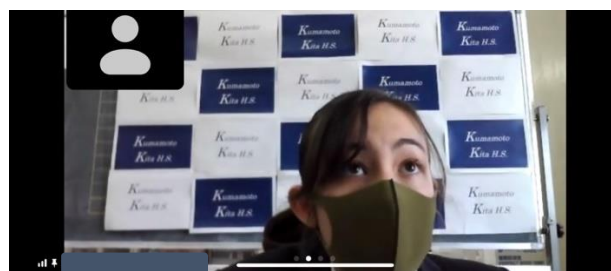


熊本第二 A vs 熊本西 E



教員ジャッジによるフィードバック

練習ラウンドが終わるといよいよ表彰に関わる学校対抗のラウンドの始まりです。第1ラウンドのお題は「*Schools should welcome Valentine's Day. (学校はバレンタインデーを歓迎すべきである。)*」でした。むしろ関係が悪化するのではないかという人間関係の問題から、アレルギーなどの健康被害まで多岐にわたるアイデアが見られました。また、POI も活発に交わされ、相互理解に努めようとしていました。



堂々とスピーチしています(熊本北高校)



POI に返答しています(鹿本 A vs 熊本西 B)



ジャッジによるフィードバック

続く第2ラウンドのお題は、「*All senior high schools and junior schools in Japan should be unified. (日本のすべての高校と中学校は中高一貫校に統一するべきである。)*」でした。参加校の中には、中高一貫の学校もあり、コミュニケーション力や授業の進度、受験の有無など幅広い観点で議論が行われました。



アイコンタクトしながらスピーチ(水俣 vs 第二) ハキハキと自信を持ってスピーチ(鹿本高校)

そしてジャッジを務めた教員が高く評価した生徒6名によるエキシビションディベートが始まりました。論題は「*With introducing e-learning, the number of classes which teachers teach should be reduced by half at high school. (e-learningを導入し、高校教員の担当授業数を半減すべきである。)*」でした。高校教員の負担だけでなく、環境問題にも着目するなど、ジャッジも驚くアイデアが飛び交いました。エキシビションディベートが終わると、お互いの健闘をたたえてエアークラッシュを行いました。



堂々とスピーチしています



ジャッジ実技試験を兼ねたジャッジコメント

【表彰】

〈エキシビジョンディベーター賞〉

- ・ PM ■■■■■さん (八代高校)
- ・ LO ■■■■■さん (熊本西高校)
- ・ MG ■■■■■さん (第一高校)
- ・ MO ■■■■■さん (熊本高校)
- ・ LOR ■■■■■さん (第二高校)
- ・ PMR ■■■■■さん (熊本商業高校)



エアー握手の様子

〈チーム賞〉

- 1位 熊本高校 C
- 2位 第一高校
- 3位 熊本高校 B
- 4位 熊本高校 A
- 5位 第二高校 F

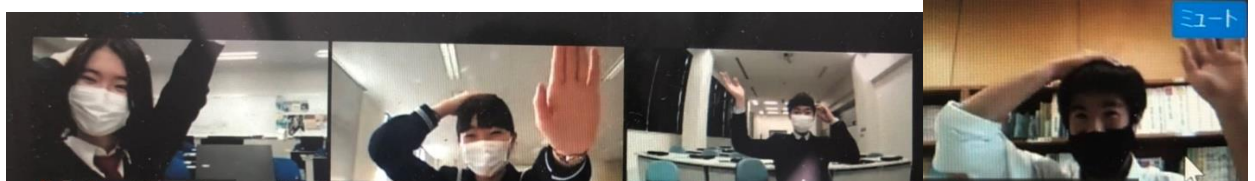
〈ベストディベーター賞〉

- ・ ■■■■■さん (熊本北高校)
- ・ ■■■■■さん (第二高校 H)
- ・ ■■■■■さん (第一高校)
- ・ ■■■■■さん (熊本高校 C)



〈POI賞〉

- ・ ■■■■■さん (水俣高校)
- ・ ■■■■■さん (八代高校)
- ・ ■■■■■さん (宇土高校)
- ・ ■■■■■さん (熊本高校 C)



参加者の声（アンケートより抜粋）

【生徒】

- ・他の高校の英語力がどれくらいなのか知ることが出来たし、自分の英語力がまだまだなことが知れたので、これからの勉強に生かしていきたいです。（熊本西）
- ・立場2は、すごく難しくて焦ってしまったが、チームのみんなと協力してできたので楽しかったです。次は、ベストディベーターショーに選ばれたいです！（熊本第二）
- ・とても楽しく、学ぶことができました！（熊本西）
- ・みんなと協力して頑張れたことがすごく楽しかったです！（熊本商業）
- ・最初はとても緊張していましたがだんだんとリラックスでき、楽しめるようになりました。今回の交流会で自分に自信をつけることができました。（熊本第二）
- ・手応えを感じることでとても楽しかったし嬉しいかったです。（水俣）
- ・自分の言いたいことを英語になおすのは難しかったです。（鹿本）
- ・自分の英語力を磨けたと思う。（熊本）
- ・自分の意見を言うだけでなくほかの高校の意見も聞くことができ、英語力の高さや視野の広さに驚かされた。ほかの学校の人とも交流することができて自分の課題やできることが分かったので、今後も英語の勉強を頑張りたいと思った。（宇土）
- ・いつもは経験できないことができて緊張したけど楽しかった。（熊本北）
- ・自分の言いたいことを言えるようになった、自分の成長を感じられたから。（熊本）
- ・初めての経験で、緊張もあったが意外にも楽しんでできたのでとても良かった。（熊本西）
- ・自分の英語が相手に伝わって、意見を返してもらえるとというのが自信になったし、とても楽しかった。（熊本第一）
- ・緊張したけど楽しめました。（八代）
- ・自分の英語が相手に理解してもらえたことが嬉しかったし、身振り手振りやアイコンタクトなど自分が意識したところをジャッジの方にちゃんと評価してもらえたことが嬉しかったからです。（熊本第二）
- ・英語力だけではなくディベート力もつけなくてはいけないなと思いました。すごく上手に話す人達が沢山いて、私たちと同じ高校生だと思うと、とてもすごいなと思いました。今回は思うようには出来なかったけど来年参加することが出来たらもっと力をつけてのぞみたいと思いました。（鹿本）
- ・他校の人とディベートをするのが初めてだったので緊張したけれど、しっかり自分の意見を伝えられたのでよかった。（熊本第二）
- ・友達と一緒に議題を考えて共に議題を深めていくのが楽しかったからです。（宇土）
- ・自分の役割だけでなく、他のメンバーのサポートをするのも楽しかったです。自分の経験が活かせること、その場の知識が材料になることなど魅力がたくさんありました。（熊本第一）
- ・本格的にディベートをしたのは初めてだったが、思っていたより楽しかったし、試行錯誤しながら良い意見を出していこうとするチームの雰囲気がとても良かった。英語で意見を言い合うという経験ができて良かった。やりがいを感じた。（熊本第二）
- ・上手く言えているかわからなかったけど、頑張れました。（八代）

【教員】

- ・生徒たちのディベートを通して多くのことを学ぶことができました。また、ジャッジの方もすることができ、とても勉強になりました。
- ・生徒たちが試合を通してディベートの力が向上しているのを感じることができ良かった。
- ・様々な学校のディベートに対する取り組み方が見えてよかったです。
- ・高校生頑張っているのを見て、とても刺激になった。生徒達も、やってみることが大切なのだという感想がきけたのもよかった。不慣れな点が多く、参加してくれた生徒達には迷惑をかけてしまったと思います。ジャッジコメントを実際に出すことをやってみると、こちらの力不足も感じました。今後の授業に活かしていければと思います。
- ・勉強になりました。生徒たちの姿勢に学ばされました。
- ・生徒が一生懸命ディベートに参加している姿を見て、やはり教育効果があると感じました。今少しだけディベートを授業で取り入れています。生徒は楽しそうです。
- ・聞き取るにあたり、メモが追いつかないことに焦りました。これからの時代は英語の内容をいかに効率よくメモを取るかの指導も大切だと痛感させられました。また教育現場はますますオンライン化が必要不可欠になり勉強する必要があると実感しました。
- ・各校の生徒さんが一生懸命ディベートに取り組んでいる様子を見て、非常に刺激を受けました。ジャッジも難しかったのですが、プラス面と改善点を考えながらコメントすることも含めて、とても良い経験になりました。昨年11月に実際にディベートを体験して、今回はジャッジを体験しましたが、両方ともとても勉強になりました。ジャッジは、良かった点はたくさん言えましたが、改善点をコメントするのが難しかったです。
- ・ジャッジは大変でしたが、懸命に英語を話そうとする生徒の姿に胸を打たれました。試合を重ねるごとに、論と論の整合性や主張の強さを見抜けるようになり、自身の成長が感じられた点も良かったです。
- ・ジャッジに関しては、前回の研修からブランクがあり、コロナの影響があり、授業でも本格的にはディベートの練習もできず、ジャッジも全く慣れないままに研修を迎えました。事前資料は読んでいたのですが、実際やってみると分からないことが多々ありました。オンラインでの開催ということで、音声聞き取りにくかったり、画面が写らなくなったりといったこともありました。土曜日ということで、他の職員に聞くこともできず、英語だけでなく、自分のICTに対する能力面での課題も見えたように思います。ディベートに関しては、参加された生徒さんの堂々と自分の意見を伝え合う姿に、大変刺激をいただきました。英語でのディベートは簡単ではないと思いますが、まずは挑戦し、それを続けていくことが重要だと感じました。本日はありがとうございました。
- ・ディベートのジャッジの伝え方が難しいと感じた。メインジャッジの時に生徒に上手にコメント返しができず、悔しい思いをした。
- ・ジャッジは難しい面もありましたが、前回習ったことを生かしてどうにかできました。生徒達が苦戦しながらもどうにか意見を言おうとする努力が見えました。どの生徒達もとてもよく英語を話しており、なるほどと納得できる意見もたくさんありました。生徒も教員も場数を踏むことが大事だと実感しました。今後も研修に参加してジャッジの技術や自分の英語能力を磨いていきたいと思っています。
- ・いろいろな高校の生徒と顔を合わせることができ、大変刺激になりました。

PDA 全国中高教員向け即興型英語ディベートワークショップ 2021

一般社団法人パーラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA)

開催日時: 2020 年 3 月 21 日 (土) 10:00-16:00

会場: オンライン

参加者: 教員 28 名 (北海道釧路湖陵高校、青森県立青森南高校、岩手県立一関第一高校、秋田県立角館高校、埼玉県立本庄東高校、翔凩中学校・高校、品川女子学院、東京都立三田高校、東京都立狛江高校、東京都立武蔵高校、明治大学付属明治高校、神奈川県立伊志田高校、神奈川県立相模原中等教育学校、カリタス女子高校、石川県立金沢泉丘高校、福井県立藤島高校、愛知県立安城東高校、愛知県立阿久比高校、関西大倉高校、報徳学園高校、雲雀丘学園中高、神戸市立葺合高校、奈良県立郡山高校、徳島県立城ノ内高校、沖縄県立前原高校)



2022 年度から始まる英語科新科目「論理・表現」では、活動の一つとしてディベートが新学習指導要領に明記されています。本研修では、授業でできる即興型英語ディベートを実践的に学び、指導力をつけていきます。

北海道から沖縄までの先生方がオンラインにて集まりました。ディベートのルール等は PDA 公式 YouTube でのアニメーション動画説明にて事前学習とし、早速研修が始まりました。学校現場において授業導入可能な 50 分完結型の即興型英語ディベートについて実践を通して学びます。教員自身がディベートをしたり、ジャッジをしたりします。また、学校において中高生に教育的配慮を持った即興型英語ディベートの指導ができる人財を認定していく PDA 認定教育ジャッジ制度での資格の取得を目指した先生方も多く参加されました。1 日で全 5 ラウンドのディベート実践を体験されました。「宿題を廃止すべきである。」といった学校でも導入しやすい論題から、新型コロナウイルスへの対応をめぐる時事論題まで取り扱いました。

第 5 ラウンド目には、事前に PDA 認定教育ジャッジ試験の受験申込をされた先生方のディベート実技試験が行われました。



実践の様子 1



実践の様子 2

参加者の声

- 教員同士の交流が一番です。なかなか他県との交流が難しい昨今、このように研修を通じて知り合いが増え、考えを共有できていることは何よりの財産です。ありがとうございます。
- 生徒の気持ちになることができたし、先生たちの素晴らしさに触れることができた。
- スタッフの人がしっかりとフィードバックをくれるので、何が良くて何が悪いのかが分かり易かったです。
- 実際にディベートをしてみて初めて分かることが多くありましたし、生徒としていだけでは学べないこともありました。
- ジャッジの先生方のコメントが大変勉強になりました。
- ラウンドでしか出来ないことがかんじられる。緊張感、論の出でこなさ、達成感 etc
- 疲れたが、実践できたから。生徒にやらせるより、まずは自分自身がディベートを体験しないとだめだと感じた。
- とても緊張したので、とても楽しむことは難しかったのですが、チームの方々と協力して楽しく学ぶことができました。ジャッジの際のアドバイスなどありがとうございました。
- なかなかディベート実践できる機会がないので、とても有意義でした。またぜひ参加したいです♪良ければ生徒同様、定期的に教員がディベート実践できる機会を作っていたけると嬉しいです。本日はありがとうございました。
- 試合を重ねるごとに、負けたのですが、爽快感を味わいました。
- ディベート・ジャッジ実践が豊富にできて、多くの先生方とディベート交流できたことはすごく刺激になりましたし、もっと勉強しないといけないと反省しました。試験中は久しぶりに汗だくになりました。また、PDAの先生方からいただいた改善点を直すために努力します。いつもですが、PDA 雰囲気は温かくて、居心地がよかったです！ありがとうございました。
- PDA をディベーターとしてまたジャッジとして体験する良い体験になった。自分のジャッジについてコメントをいただけてありがたかったです。
- たくさんの実践もありましたし、ジャッジの仕方も学びましたし、非常に実りがありました。

- 全ての役割を体験できてよかった。また PDA のジャッジの方のコメントが秀逸で、はじめてのディベートでしたが非常に勉強になりました。
- 考えていることを表現できないもどかしさを解決したいと思った。頭を使う活動がこれほど人間の成長に効果的なのかを実感できた。ディベートでは、ジャッジの仕方、ディベートの考え方、表現の仕方を学び、人間本来の思考力であったり、創造力を育てる活動であり、現在の高校生に決定的に欠けている部分を補えると確信できたことが大きな収穫であった。全国の先生方と共同できて幸せであるとともに、自分のできなさに今後の未来を感じました。
- 他校の先生方との交流が非常に楽しかったです。今後の教材研究等の励みにしたいと思います。
- ディベート実践（特に同じグループの先生の素晴らしいディベートが大変参考になりました）

以上

第4回 PDA 中学生即興型英語ディベート全国大会
The 4th PDA Junior High School Parliamentary Debate National Competition

一般社団法人 パーラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA)

日程：2021年3月20日(土)

会場：Zoom(オンライン)、本部：大阪府立大学

主催：一般社団法人 パーラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA)

共催：大阪府立大学

後援：朝日新聞社、朝日中高生新聞、一般社団法人 日本英語交流連盟

助成：公益財団法人 日本財団、公益財団法人 KDDI 財団

協賛：TOEFLjunior®

【開催趣旨】

一般社団法人パーラメンタリーディベート人財育成協会(PDA)では、グローバルに活躍する人財育成の一手法として、英語での発信力、論理的思考力、幅広い知識・考え方、プレゼンテーション力、コミュニケーション力などの複数の力を効果的に訓練可能な即興型英語ディベートを推進しています。

本大会では、即興型英語ディベートの普段の練習の成果を試し、全国の高校生と議論を交わすことで、さらなる成長・学習意欲を促すことを目的とします。授業での取り組み成果を発揮できるよう、形式は授業導入可能なフォーマットです。

(参照：文部科学省助成事業 <http://englishdebate.org/debate/>)

【参加校】

- (茨城県) 清真学園中学校
- (茨城県) 東洋大学附属牛久中学校
- (栃木県) 栃木県立宇都宮東高等学校附属中学校
- (千葉県) 渋谷教育学園幕張中学校
- (千葉県) 翔凛中学校
- (東京都) 品川女子学院中等部
- (東京都) 東京都立三鷹中等教育学校
- (東京都) 筑波大学附属駒場中学校
- (東京都) 白百合学園中学校
- (神奈川) 湘南白百合学園中学校
- (神奈川) 浅野中学校
- (神奈川) 聖光学院中学校

(神奈川県) 栄光学園中学校
(神奈川県) 洗足学園中学高等学校 (※欠)
(大阪府) 関西大倉中学校
(兵庫県) 神戸大学附属中等教育学校
(広島県) 広島学院中学校
(徳島県) 徳島県立城ノ内中等教育学校
(福岡県) 福岡雙葉中学校
(熊本県) 熊本県立八代中学校

20校

【タイムスケジュール】

10:00 受付
10:20 開会式
10:40 ラウンド 1
11:40 昼食交流会(11:50~12:20)
12:30 ラウンド 2
13:40 ラウンド 3
14:50 決勝進出チーム発表、決勝準備
14:55 キーノートレクチャー
15:10 決勝
15:40 表彰式、アンケート
16:00 終了

【ご挨拶】

第4回PDA中学生即興型英語ディベート全国大会は、昨年に引き続きオンラインでの開催の運びとなりました。この一年で、講義のみならず、ディベートのようなアクティブラーニング形式の学習もオンラインでの実施ノウハウが確立されてきました。急速な時代の変化に対応しながら、効果的に学んでいくことは重要であると思います。

高等学校の新学習指導要領では、2022年度から英語科の新科目「論理・表現」が掲げられ、活動としてディベートが明記されています。本大会で取り扱うディベートは、授業の50分で完結する形式であり、中学生にとって近い将来役立つ内容です。英語で発信する力のほか、様々な論題について多様な視点から考える力を鍛える一助となることを願っています。

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA) 代表理事

中川智皓 (大阪府立大学工学研究科・准教授)

JST 戦略的創造研究推進事業 さきがけ研究員 (兼任)

【キーノートスピーカーからのメッセージ】

即興型英語ディベート全国大会のオンライン開催おめでとうございます！

新型コロナウイルスの影響で、皆様にとってもこの1年は大変な時期だったと思います。しかし、多くの制約・制限・我慢が強いられた一方で、コロナ禍の前にはなかった様々な「新たな生活様式」を手に入れることもできました。その一つがこの「オンライン」という方法です。もちろん対面型、集合型の良さもたくさんあります。でも、世界中どこにいても繋がることのできる、こうした新たな取り組みの良さを大切にして、さらなる可能性を拡げつつ、次に繋いでいきたいですね。今しかできない素晴らしい体験をぜひオンラインで一緒に共有しましょう。

キーノートスピーカー 大阪府立大学 地域保健学域 教育福祉学類 教授
伊藤 嘉余子 氏

【論題】

R1 Japan should abolish zoos.

(日本は、動物園を廃止すべきである。)

R2 Hosting the Tokyo Olympics in the summer of 2021 will do more good than harm.

(2021年夏の東京オリンピックの開催は、害よりも利益をもたらす。)

R3 Children should choose foster parents over biological parents who cannot provide adequate food, clothing and shelter.

(子供は、適切な衣食住を提供できない実親よりも、里親を選ぶべきである。)

決勝 Online learning should be introduced in junior high schools, and students should go to school only three days a week.

(中学校では、オンライン学習を導入し、登校日を週3日にすべきである。)

【開会式】

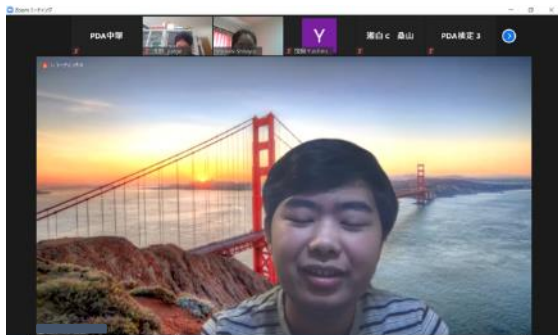
新型コロナウイルス感染症の影響を受け、第4回PDA中学生即興型英語ディベート全国大会は、前年と同様に遠隔（オンライン）で実施することとなりました。開会式がはじまりました。はじめに、中川代表理事より開会の挨拶として本大会の趣旨が話されまし



た。2022年度より高等学校の新学習指導要領では英語科の新科目「論理・表現」が掲げられ、ディベートが示されていること。また本大会で扱うディベートは実際の授業時間内（50分）で完結する形式であり、中学生にとって役立つものであります。また、コロナ以前から5年ほどかけて、各地域でのディベート交流大会、認定教育ジャッジ制度の確立、など、PDAでのディベート推進活動の紹介がありました。つづいて、本大会参加の20校が紹介されました。POI（Point of Information: ディベート中の質疑応答）を全員で練習しました。メインルームには参加者たちの大きな「POI!」のかけ声がひびきわたりました。ところどころから笑い声も聞かれ、POIを模擬することで、少し緊張がほぐれた様子でした。その後、PDA本部スタッフよりジャッジへ向けてスコア送信についての注意事項、説明がありました。

【ラウンド1】

開会式が終わり、1ラウンド目のはじまりです。論題発表のアナウンスがあると、生徒たちの緊張が画面越しに伝わります。対戦表と論題が発表されると、各チームがチームメイトと準備を開始しました。論題は、Japan should abolish zoos.（日本は、動物園を廃止すべきである。）です。動物が感じるであろうストレスや環境問題にも触れながら、動物園の是非を議論しました。ひっきりなしに相手チームからPOIも出され、1戦目から白熱したディベートとなりました。ディベートが終わるとジャッジから各生徒にフィードバックが行われました。ジャッジからは両チームともに非常に素晴らしい内容だったため、勝敗を決めるのがとても難しいです、といった感想も述べられていました。



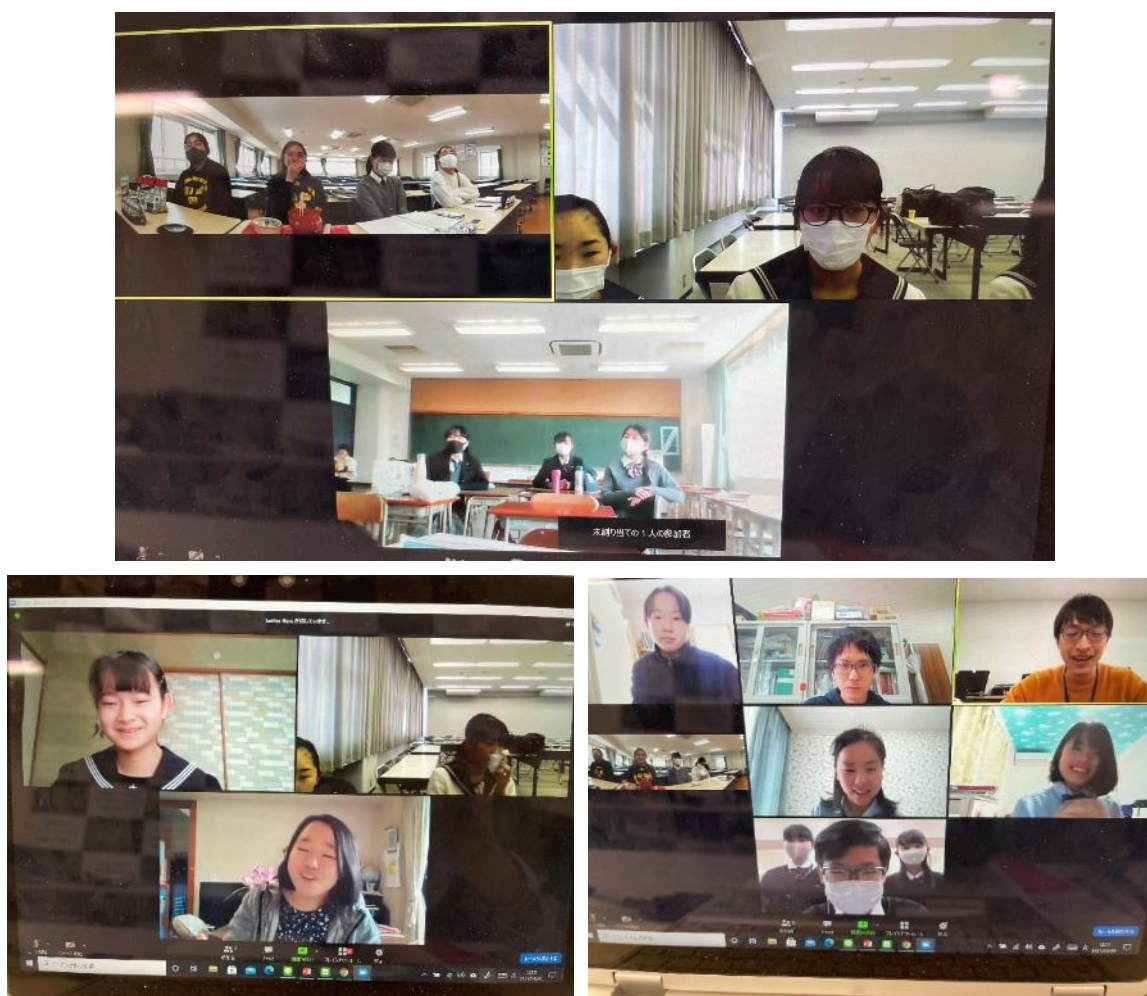
湘南白百合（神奈川）vs.筑駒（東京）



ラウンド後はジャッジから勝敗と個人コメントをもらいます

【昼食交流会】

昼食タイムです。コロナ禍のため各々で昼食をとっていただきましたが、自由にオンラインで雑談を楽しみながら、各校と交流を図りました。ラウンド1ではどのようなポイントを出したかなどをたずねてみたり、お互いの地域でのコロナ感染の状況、コロナ禍での授業形式や、普段はどのように英語ディベートを練習しているかなどを共有していました。中学1年生の生徒も参戦していることに驚いている様子や、zoomでの画像の映り具合の工夫などを気にしている様子も見られ、ラウンド中の緊張した雰囲気とはまた違った生徒たちの楽しそうな顔が印象的でした。



【ラウンド2】

2ラウンド目の論題は、Hosting the Tokyo Olympics in the summer of 2021 will do more good than harm. (2021年夏の東京オリンピックの開催は、害よりも利益をもたらす。)です。当然のように、新型コロナウイルス感染予防が争点となったディベートでした。ワクチンの有効性や、変異型ウイルスの問題点として挙げられる一方、オリンピックに出場する選手たちや、オリンピックが開催されたときの国民のモチベーションの高まりなど精神論に

も言及するなどされ、非常にバラエティに富んだ内容の議論がなされました。ジャッジからは POI がよく出たこと、それに対しての回答も良かったこと、しかしながら、何故オリンピック開催がコロナ感染に結びつくかの明確な理由の説明がなかったことなど、良かった点と改善点を示してもらいました。生徒たちからもジャッジに質問が出されるなど、次のラウンドに向けてさらに向上したいという熱意が伝わりました。



波幕(千葉) vs 聖光(神奈川)



ラウンド後のエア握手



清真(茨城) vs 翔凜(千葉)



ラウンド後は談笑でホッと一息

【ラウンド3】

3 ラウンド目の論題は、Children should choose foster parents over biological parents who cannot provide adequate food, clothing and shelter. (子供は、適切な衣食住を提供できない実親よりも、里親を選ぶべきである。)です。Government (肯定チーム)からは子どもたちの成長や将来を優先するべきであるという立場で、いっぽう、Opposition (否定チーム)は実の親からの愛情に特化した議論がなされました。また、養護施設などにかかる税負担や虐待といった、この論題に関連される問題点もそれぞれのチームから挙げられました。3 ラウンド目となると、どの生徒も緊張もほぐれてきたようで、明瞭で聞きやすい声の大きさであったり、適度なボディランゲージも活用できており、オンラインでスピーチをすることのハードはまったく感じさせられないほどの素晴らしいディベートをしていました。



八代(熊本) vs 浅野(神奈川)

【キーノートレクチャー】

本大会でのキーノートレクチャーは、大阪府立大学 地域保健学域 教育福祉学類の教授伊藤嘉余子氏をスピーカーにお迎えし、ラウンド3の論題にあった里親制度に関連する「社会的養護」についてお話ししていただきました。虐待やネグレクトの被害に遭っている子供たちが精神的に、肉体的にどのような影響が生じるのか、などの詳しい説明がありました。また、被害を受けている子供たちだけでなく、どうして虐待をしてしまうのか様々な要因を追求することで、親を含めた社会全体へのサポートをしていくことの必要性についても説明されました。実際、伊藤教授はこれまでに10人以上の里子たちを育てて来られてきたとのことで、大会に参加している生徒たちからも日本における里親制度の遅れや、親からの愛情についての質問が投げかけられました。伊藤教授からは、日本の里親制度が他の先進国に比べて遅れている理由としては、里親になりたい人自体が少ない、国からの里親に対する補助金が他国の4分の1ほどでしかないこと、また、里親になることへの周囲からの差別などの問題が挙げられました。しかしながら、昔に比べると、日本でも里親に対する理解はだいぶ改善されてきているとのお話しでした。



生徒たちの質問に丁寧に答えてくださる伊藤教授

【決勝ラウンド】

いよいよ決勝進出チームの発表です。予選 3 ラウンドの結果、東京都立三鷹中等教育学校、渋谷教育学園幕張中学校が選出されました。決勝戦の論題は、Online learning should be introduced in junior high schools, and students should go to school only three days a week. (中学校では、オンライン学習を導入し、登校日を週 3 日にすべきである。) です。両チームの各生徒は、多くの生徒や教員たちが見守る中、まったく緊張を感じさせない落ち着いた口調で、内容の論理性、英語力、堂々とした姿勢など、どれをとっても中学生とは思えない非常に素晴らしいスピーチを披露してくれ、決勝戦にふさわしいラウンドとなりました。

決勝進出チーム発表 14:50~14:55

決勝戦

Online learning should be introduced in junior high schools, and students should go to school only three days a week.

中学校では、オンライン学習を導入し、登校日を週3日にすべきである。

決勝進出チーム発表 14:50~14:55

決勝

Table	Government	Opposition	Judge
メイン	東京都立三鷹中等教育学校	渋谷教育学園幕張中学校	田村 [C] 河野 泉 須田 伊勢 福田 大山



決勝ラウンドが終わり満面の笑顔でエア握手

【表彰式・閉会式】

表彰式では、ベストディベーター賞、ベスト POI 賞、ベストジャッジ賞が発表されました。つづいて、決勝ラウンドでの勝敗が発表されました。選ばれた生徒たちは顔をほころばせて喜んでいました。あふれ出る笑顔が、これまで練習を積み重ねてきた頑張りの証に見えました。最後に、中川代表理事より以下の閉会の挨拶をもって、第4回PDA中学生即興型英語ディベート全国大会は幕を閉じました。「率直な感想として、どの生徒も中学生とは思えないくらいのレベルで正直驚いています。会を重ねるごとに、中学生の皆さんのレベルがどんどん上がっているのを感じています。本大会で、特にキーノートレクチャーで知識を深めることが出来たと思いますが、身近にいる社会的養護を受けている人がいれば、もし身近にいなかったとしても、そういった困っている人たちが社会にいるということを、この即興型英語ディベート大会を通じて、考える良い機会となれば幸いです。」



ベストディベーター賞の表彰



POI 賞の表彰



ベストジャッジ賞の表彰



トロフィーの授与

第4回 PDA 中学生即興型英語ディベート全国大会結果

<チーム賞>

- 優勝 渋谷教育学園幕張中学校(千葉県)
- 準優勝 東京都立三鷹中等教育学校(東京都)
- 3位 浅野中学校(神奈川県)
- 4位 栄光学園中学校(神奈川県)
- 5位 栃木県立宇都宮東高等学校附属中学校(栃木県)

<個人賞>

- ベストディベーター賞 (個人名略)
- ベスト POI 賞 (個人名略)

ジャッジ賞 (教員個人名略)

【アンケート（抜粋）】

1. 生徒からの感想

- ジャッジの方々が丁寧に説明して下さったことや、相手チームや、決勝戦でよかったところなどは真似したりして、次に生かしたいと思いました。また、ジャッジの方々の説明がとてもわかりやすかったです。（湘南白百合）
- 初めての大会で、他校とのレベルを知ることが出来、目指す目標ができた。また、議題のトピックについて深く考える機会、自分のレベルを知る機会になり、とても学びにもなった（関西大倉）
- 昼食やディベート実践後の会話で、なかなか交流できない学校と交流するのがとても楽しかったです。またたくさんの社会問題について意見を共有できました。（熊本八代）
- 今回、初めての大会の参加で緊張してしまいましたが思っていたよりも大会の雰囲気柔らかかったこともありリラックスして挑めたと思います。今後の大会にも積極的に参加していきたいなと思いました！今回はこのような状況の中でオンラインを通して大会を開催して頂きありがとうございました！（清真）
- 今回、自分のディベート力について、レベル差を見せつけられた。改善点を沢山知ることができ、勉強になった。論理的に考えるというディベートの目的、それから英語を使うことで英語をただの暗記項目としてではなく言語の一つとして使い慣れる、という目的を同時に果たすことができ、非常に良かった。（広島学院）
- 勝ち負けもあったが、それ以上に新しい観点で論題について取り組むきっかけになったり、他校の生徒さんの良いところを知れたから。（品川女子）
- ディベートにおいて悔しさも嬉しさも色々実感して、多くのことを学べたから。対戦後も他校との make friends の時間を楽しめたから。（神大附属）
- 初めてなのでちょっと難しくてどうすればいいのかよくわからなかったんですけど、たくさん学ぶことができて良かったです。（福岡雙葉）
- 勝ち負けにこだわるのではなく、一つの教育としてのディベートを意識した方針の大会で、人として成長できたと思う。ありがとうございました！！（城ノ内）
- 手強い相手のチームの方々とディベートで、圧倒されつつも楽しみ、多くを学ぶことができました。（聖光）
- 英語ディベートを通して他校の生徒との交流や自分の学校の生徒と絆を深めることが出来たのでとてもいい経験になった（牛久）
- 大会二回目なのですがジャッジの方々がとてもわかりやすくフィードバックをくれたり良いディスカッションができたので良かったです。（渋幕）
- ハイレベルに、語彙力や文法ではなく論理的思考力を競えるのが楽しかった。（三鷹中等）

2. 教員・見学者からの感想

- 九州を超えて、全国の経験豊かな生徒の皆さんとディベートができることは本当に素晴らしいことで、感謝しています。
- オンライン動画したが非常にスムーズで準備が非常に良かったです。
- 毎度、大会運営していただきありがとうございます。予選3試合できて生徒たちは喜んでと思います。今後ともどうぞよろしく願いいたします。
- 円滑な運営、プロの的確なフィードバックは大変良かったです。
- 4回目となってどんどん成長していっている様子がてにとるようにわかった。
- ジャッジ、ラウンド、交流、キーノートレクチャー...全て充実していました！
- 全国の中学生にとって、オンラインでこれほど質の高い大会に参加できること、素晴らしいと思います。スムーズな運営も見事でした。最後の上野千鶴子先生の言葉を紹介いただいたことも胸にしみました。才能と環境がある子供たちへのタイムリーな言葉だと思いました。見学させていただき本当にありがとうございました。

3. キーノートレクチャーについての感想

- 今回、里親についてのディベートの直後にこのレクチャーを聞き、日本の現状と里親に育てられている人目線の意見も知ることができた。見て面白かった。(広島学院)
- 今まで知らなかった里親についてたくさん知ることができてもっと知りたいなと思いました！いい機会になりました！(宇都宮東)
- 里親として10人もの子供を育てられた方のお話を聞く、とても貴重な体験をすることができ、良かったです。(白百合)
- 里親を実際にやられている方のお話はインパクトがありました。(筑駒)
- 里親がもらっているお金が余っていたより少なかったのが驚いた。(浅野)
- 自分達の議論を深めるために、とても役に立った。(清真)
- 普段は聞けないような、貴重なお話をしていただいて、とても興味深かったです。特に、どのような順番で子供の行き先が決まるのかは知らなかったのも、とても興味深かったです。(湘南白百合)
- 昨今の里親制度について詳しく解説して下さり、里親制度への理解が深まった。質問に対しても詳細まで答えて下さり、とても分かりやすかった。(広島学院)
- 自分達の価値観を覆し、また自分の境遇の良さを省みることができました。素晴らしい研究者であり、人であり、母親だと思いました。(神戸大附属)

以上

PDA 京都高校即興型英語ディベート交流大会

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA)

開催日時：2021年3月23日(火) 13:30-17:00

会場：オンライン (Zoom)

参加校：6校、8チーム (京都府立嵯峨野高校、京都府立鳥羽高校、京都府立南陽高校、京都市立日吉ヶ丘高校、京都府立峰山高校、京都市立堀川高校)

参加者：生徒33名、教員11名

スタッフ：PDAスタッフ、PDA認定教育ジャッジ、一橋大学、名古屋工業大学
一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA)



開会式では、京都府立園部高校校長伊藤先生より、「英語は国際理解をし、自分の考えを発信していく上でとても重要です。この即興型ディベートを通して、様々な交流を可能にする力身につけてください。」とエールが送られました。次にPDAスタッフより、参加した6校の学校紹介・ルールの確認・POI(Point of Information)の練習を行いました。POIは相手チームのスピーチ中に質疑応答を要求することができるルールです。片手を頭、もう片方の手を伸ばしたポーズで“POI!”と言って行います。これは即興型英語ディベートが昔のイギリスの議会を模しており、そのときの名残だと言われています。POIの練習では元気よくPOIを行いました。



京都府立園部高校校長伊藤先生のご挨拶



POIの練習

第1ラウンドのお題は「**We should prohibit cosmetic surgery. (美容整形を禁止すべきである。)**」でした。肯定側からは整形のリスク、中毒になる可能性、個性が失われてしまうこと、否定側からは自己実現やコンプレックスを克服することの重要性など様々な観点から議論されました。ジャッジ中はコメントをメモにとるなど次のラウンドに活かそうとする様子が見られました。



鳥羽高校(左上) vs 嵯峨野高校(右上)



嵯峨野高校(右上) vs 峰山高校(中央下)

続く第2ラウンドのお題は、「*All senior high schools and junior schools in Japan should be unified.* (日本のすべての高校と中学校は中高一貫校に統一するべきである。)」でした。人間関係の学びを得られるのはどちらか、より深い交友を築けるのはどちらか、勉強にとっていいのはどちらかなどの観点について、比較を行いました。ディベートが終わると、お互いのスピーチの内容を確認したり、普段どのようにディベートをしているのか、部活は何をしているのかなど交流を深めました。



堀川高校



交流の様子(日吉ヶ丘高校(左)、嵯峨野高校(右))



ジャッジのフィードバックを聞く様子(南陽高校(右上)、鳥羽高校(左下))

そしてジャッジが高く評価した生徒6名によるエキシビジョンディベートが始まりました。論題は「*With introducing e-learning, the number of classes which teachers teach should be reduced by half at high school. (e-learningを導入し、高校教員の担当授業数を半減すべきである。)*」でした。先生の負担、授業の質などについて議論を行いました。ディベート後はジャッジをした7名の教員ジャッジによる投票の結果、Oppositionの勝ちとなりました。



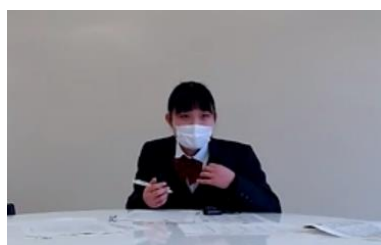
PM 嵯峨野高校



LO 鳥羽高校



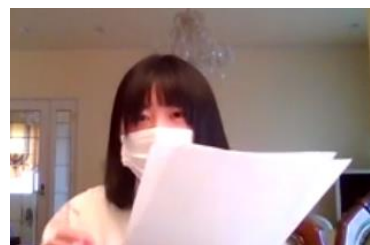
MG 南陽高校



MO 峰山高校



LOR 日吉ヶ丘高校



PMR 堀川高校

閉会式では、PDA 代表理事である中川智皓（大阪府立大学工学研究科准教授）より、「これから先、オンラインで何かを行うという機会はどんどん増えて行くと思います。大学の留学もオンラインで行われていることが多いです。今回はオンラインでの開催ということでしたが、今後もこのような機会を最大限活かして、オンラインで、そして英語で話すトレーニングに励んでください。また、POIを通したやりとりができれば、ディスカッションもできるということになります。POIにもチャレンジするよう頑張ってください。」とエールが送られ、PDA 京都高校即興型英語ディベート交流大会の幕が閉じました。



PDA 代表理事 中川智皓による講評

【表彰】

〈エキシビジョンディベータ賞〉

- ・ PM [redacted] さん (嵯峨野高校)
- ・ LO [redacted] さん (鳥羽高校)
- ・ MG [redacted] さん (南陽高校)
- ・ MO [redacted] さん (峰山高校)
- ・ LOR [redacted] さん (日吉ヶ丘高校)
- ・ PMR [redacted] さん (堀川高校)



〈チーム賞〉

- ・ 1位 嵯峨野高校 B
- ・ 2位 峰山高校
- ・ 3位 鳥羽高校 B



1位 嵯峨野高校 B



2位 峰山高校



3位 鳥羽高校 B

〈ベストディベーター賞〉

- ・ [redacted] さん (嵯峨野高校)
- ・ [redacted] さん (嵯峨野高校)
- ・ [redacted] さん (嵯峨野高校)
- ・ [redacted] さん (鳥羽高校)
- ・ [redacted] さん (鳥羽高校)
- ・ [redacted] さん (南陽高校)
- ・ [redacted] さん (峰山高校)
- ・ [redacted] さん (堀川高校)



ベストディベータ賞

〈POI 賞〉

- ・ [redacted] さん (嵯峨野高校)
- ・ [redacted] さん (峰山高校)
- ・ [redacted] さん (堀川高校)
- ・ [redacted] さん (堀川高校)



POI 賞

参加者の声（アンケートより抜粋）

- ・相手の意見、自分の意見をしっかり理解して、話したり聞いたりできた。（峰山高校）
- ・普段他校と交流出来なかったのが新鮮だった。（鳥羽高校）
- ・普段ディベートできない人とディベートできた。（嵯峨野高校）
- ・友達と仲良く話しながら取り組めた。（堀川高校）
- ・とてもレベルが高くて、すごく勉強になり、参加してよかったと思います。（鳥羽高校）
- ・他の高校の方と余り話す機会もないので、こう言った機会があつてとても楽しかった。ディベートが終わったあともうちよっと交流したいなと思った。（鳥羽高校）
- ・初めてでどのようなものなのかあまり分からなかったけれど、皆さんが話す英語を聞いてすごく刺激を受けたし、立論や根拠の提示など難しかったがとても積極的に議論を進めている仲間に、私も頑張ろうと思えて、深い学びができたと思うから。（堀川高校）
- ・同じ京都の公立高校でもペラペラ英語話せてる人がいっぱいいて刺激をもらいました。（鳥羽高校）
- ・英語で話すことが、普段あまりないので良い経験ができた。もっと、英語でたくさん話せるようになりたいと思った。文法があまり出来てなくても、フィーリングで話せるようになりたい。（鳥羽高校）
- ・新たな視点を考えることが出来た。また、エキシビジョンディベートでは、他の高校の皆さんのディベートの仕方を見て、学べるが多かったです。自分のこれからの意見発表に生かしていきたいと思うものが沢山あり、たのしかったです。（日吉ヶ丘高校）
- ・ディベートはやったことがなくて始めてだったのですが、新しい経験としてやれてよかったと思いますし、仲間とも協力してやるのが楽しく感じました。英語が一番苦手な教科なのですが、沢山のの人に支えられなんとか最後までやり切ることができてよかったと思います。この経験を沢山のところで役に立たせるように頑張りたいと思います。（鳥羽高校）
- ・一人一人のコメントや肯定側、否定側どちらもだめなところとかよいところを伝えてくださったのでとても分かりやすかったしこれからの課題が見つかった。はじめてこういう大会に参加してははじめは緊張しててこわかったけれど実際やってみると勝ち負けに関わらず意見をいったり反論したりできて楽しかった。また参加したいと思いました。ジャッジのひとの意見が的確でためになりました。（嵯峨野高校）
- ・英語で話すことの難しさ、また逆に楽しさを知ることができたので良い機会になりました。ありがとうございました。（南陽高校）
- ・色々な人の考えが学ぶことができ、また、英語で積極的に発言する高校生の仲間たちにとっても刺激を受けました。英語のスキルを上げ、素早く意見をまとめる力を身につける良い機会になった。（南陽高校）
- ・エキシビジョンマッチで本当に遠隔地のチームメイトと相談しながら準備して対戦することが経験できたのは生徒にとって良い経験になったと思います。（教員）
- ・以前からこのディベート大会に生徒と参加したいと思っておりまして。今回は zoom を使用していたため、臨場感には欠けたかもしれませんが、移動の手間がなく、生徒にも参加を呼びかけやすかったです。ありがとうございました。（教員）
- ・久しぶりに参加し刺激を受けました！ オンラインでもしっかりエキシビジョンディベートも成立しレベルの高いものまで見られたので良かったです。ZOOM で他校の生徒同士がつながり積極的に一生懸命ディベートしていて素晴らしかったです。（教員）